骨と関節をイメージした
整形外科アピールマーク

大腿骨頭壊死症（だいたいこっとうえしょう）

「運動器の健康」世界運動
動く喜び 動ける幸せ

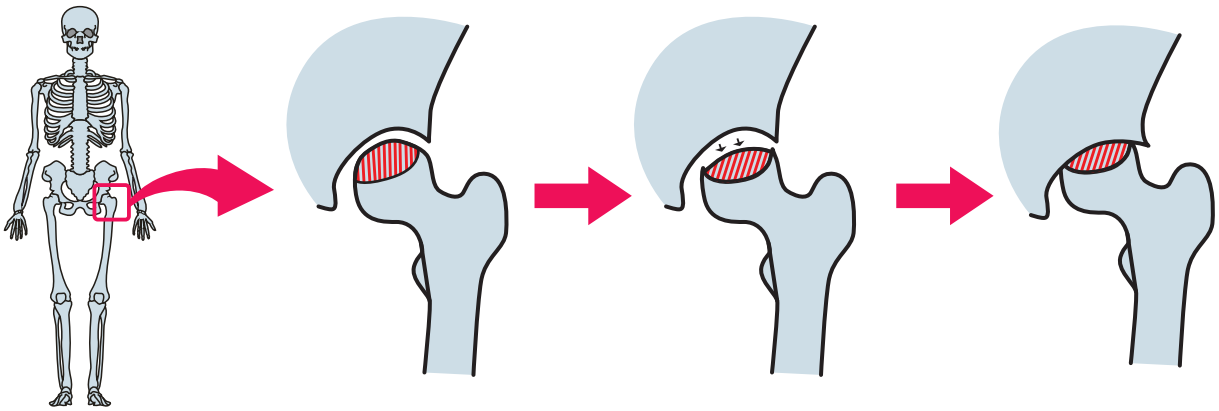
症状

股関節は脚の付け根にある体重を支える大切な関節です。股関節にある大腿骨の丸い部分を大腿骨頭と呼びます。大腿骨頭壊死症は骨頭内で骨の細胞が死（壊死）んでしまう病気です。

骨頭に壊死があっても最初は痛みがありません。壊死した骨頭が潰れて（圧潰）初めて痛みを自覚するようになります。圧潰が進行すると痛みも増強します。

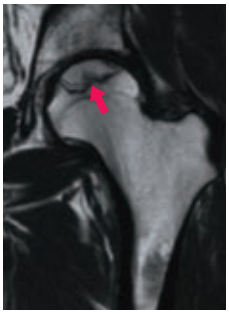
原因・病態

何らかの原因で骨頭の血流が悪くなり骨の細胞が壊死すると考えられています。血流障害の原因は骨折後遺症など原因がはっきりしているものと原因がわかっていないもの（特発性：とくはつせい）があります。ステロイドという薬を大量に使用したことのある人や大量に飲酒をする人ではリスクが高くなります。骨頭が圧潰するかどうかは血流障害のある壊死部の大きさによります。骨頭が圧潰すると痛みが生じて、股関節の変形が進みます。



診 断

X線写真やMRI、骨シンチグラムで診断します。特にMRI検査では初期から骨頭内の変化がわかるため、早期診断に有効です。



MRI検査

X線写真

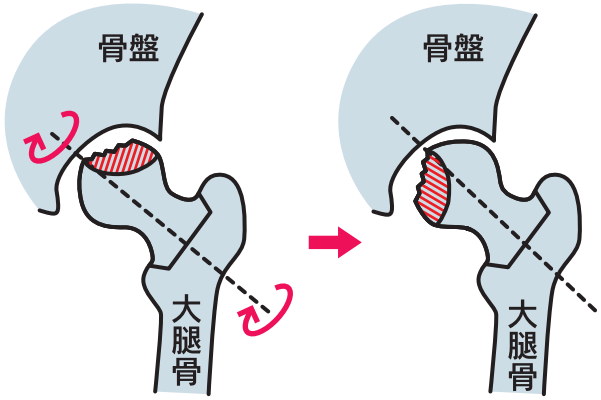
治 療

保存療法

壊死範囲が小さい場合は、手術をしない治療になります。痛みが強い時には杖を使用して骨頭の破壊が進まないように心がけましょう。壊死範囲が大きい場合、一度圧潰すると骨頭の変形が進行します。手術の時期を逸しないことが大切です。

大腿骨人工骨頭置換術と人工股関節置換術

痛みがあり、骨頭の圧潰が進行することが予想される場合は手術適応になります。年齢、破壊の程度、治療期間などから手術法が検討されます。若年者の場合、骨切り術と呼ばれる自分の股関節を温存する手術が優先されます。壊死範囲が大きい場合や高齢者、変形が進んだ症例では人工骨頭置換術や人工股関節置換術が選択されます。



大腿骨頭回転骨切り術

大腿骨人工骨頭置換術

人工股関節置換術

企画・制作
公益社団法人日本整形外科学会

制作協力
エーザイ株式会社

MO0055DKA
2024年12月作成